

徳島市加茂名南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分で考え、判断し、行動する児童を育成する授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

委員

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

外部講師や管理職、教員相互による授業参観、校内研修等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が育ち、集中して学習に取り組んでいる。 ●当該学年で身に付けておくべき知識・技能が確実に身に付いておらず、学力の二極化も見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得している。 ・知識・技能の習得のために、適切に学習用具(ノート・ものさし・タブレット端末等)が活用できる。	・個に合わせて、ドリルやタブレット端末を活用して、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くようにする。 ・朝の活動の時間や隙間の時間を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得のためにプリントやテストを繰り返し行い、定着を図る。	具体的方策を継続していく。	・ドリル・プリント・タブレットなどのくり返し学習により、基礎的・基本的な知識や技能を習得する児童が増えてきた。 ・基礎的な力が全体的には向上する傾向がある一方、依然として学力の二極化に課題がある。	・全校で学習規律の徹底を図る。 ・ドリルやプリント、タブレットなど個に応じた学習が選択できるように工夫する。 ・ICTの効果的な活用方法を研修する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア、グループ学習での話し合いを円滑に進めることができ、考えを整理したり、まとめたりすることができる。 ●自分の考えを単語で伝えたり、他者の意見に流されてしまったり、個人での発信が課題である。語彙も少ない。	・話型や手引き等を活用し、目的に応じて、自分の考えと比較しながら聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 ・一人一人が自信をもって、自分の考えを表現することができる。	・児童同士の信頼関係づくり、認め合える仲間作りを行い、表現しやすい環境作りに努める。 ・児童が自信をもって表現できるように、ヒントカードを用いたり、言葉を補ったりする等、手立てを講じる。	具体的方策を継続していく。	・個々の得意や苦手を認め合う雰囲気のある学級経営を心がける事で、安心して自分の意見を表現しようとする児童が増えてきた。 ・表現の苦手な児童には手引きやヒントカード、話型等が効果的であった。 ・学校生活全体で考える習慣を設ける。	・教師と児童、児童同士の良好な人間関係を築いていく。 ・個に応じたヒントカード、手引きを考案する。 ・もち寄った個の意見を練り上げる場を構想する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを積極的に書くことができるようになってきた。 ●つまずいても最後まで諦めず取り組んだり、自ら課題を見つけて取り組んだりする児童は少ない。	・一人一人が毎時間の学習に目標を持ち、積極的に授業に参加している。 ・「次はこんなことを学びたい。」という意欲をもって、授業や家庭学習に取り組む。	・前時のふり返りから本時の授業に繋げたり、体験活動やグループ活動を取り入れたりし、「わかる」授業を充実する。研修を行い、教員の授業力の向上を図る。 ・家庭学習の手引きや進め方を活用してもらい、家庭学習の充実を図る。	具体的方策を継続していく。	・実技教科などでは場の設定の工夫により、「チャレンジしよう」という意欲が高まった。 ・ふり返りの習慣化により、学びの自覚ができ、次への意欲へつながった。 ・家庭学習への取り組み方に改善の余地がある。	・教員が教材研究に取り組み、「学びたい」「やってみたい」「わかる」授業を展開する。 ・体験活動を積極的に取り入れる。 ・家庭との連携を図り、家庭での体験や家庭学習を充実させる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

